

# ひまわりだより

NO.259

2019年12月



巾上ひまわり薬局 松本市巾上10-5 TEL 0263-35-4441  
FAX 0263-37-5561  
塩尻ひまわり薬局 塩尻市長畝230-3 TEL 0263-51-5311  
FAX 0263-51-5322

定休日 日曜・祝日



早いもので、令和元年も残りあと1ヶ月となりました。寒い季節、痔を患っている方は、特に悩む季節ではないでしょうか。



今月と来月は、「痔」についてお話します。



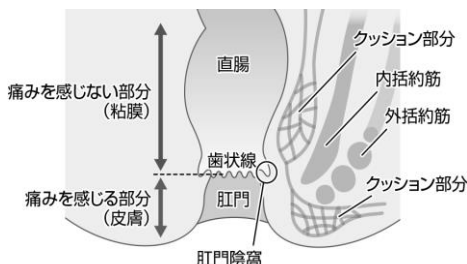
痔は、日本人の3人に1人が「痔持ち」ともいわれるほど身近な疾患です。しかし、場所が場所だけに「恥ずかしい」「病院へ行くのはおっくう」と、人知れず悩んでいる人は少なくありません。症状の軽いうちは、市販の薬や便秘の改善などによるセルフケアで様子を見ることも可能ですが、症状を我慢しているうちに悪化してしまう場合もあります。



## 肛門周囲の構造

まずは簡単に肛門の構造を見てみましょう。

- ▶ しじょうせん 歯状線：直腸(粘膜)と肛門(皮膚)の境目。



歯状線より直腸側(粘膜)は痛みを感じる知覚神経が通っていないため、痛みは感じませんが、それより下にある肛門上皮(皮膚)には知覚神経が通っており、痛みを感じます。

- ▶ 肛門<sup>いんか</sup>陰窩：歯状線のところにあるくぼみ。
- ▶ 括約筋：肛門を閉じる働きをする筋肉。内括約筋と外括約筋がある。
- ▶ 肛門のクッション：網目状に広がる血管があり、弾力性に富んだ部位。肛門をピッタリと閉じ、便の汁やガスが漏れるのを防ぐ。



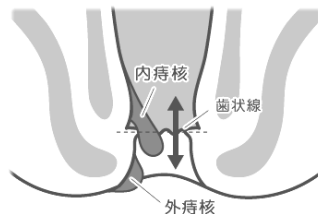
## 痔の種類

痔とは、肛門・肛門周囲の疾患の総称で、大きく「痔核(いぼ痔)」、  
「裂肛(きれ痔)」、<sup>じろう</sup>「痔瘻(あな痔)」の3種類に分けられます。

### ◆ 痔核(いぼ痔)

痔の中でもっとも多く、男女ともに患者の半数以上を占めます。

肛門の奥の直腸側にできる「<sup>ないじかく</sup>内痔核」と、  
歯状線より下の皮膚にできる「<sup>がいじかく</sup>外痔核」があります。



- ▶ **内痔核**：軽いうちは排便時の出血のみで痛みはないものの、  
症状が進むと、肛門の外まで出てくるようになり(<sup>だっこう</sup>脱肛)、  
痛みを生じる。
- ▶ **外痔核**：出血は少ないが、強い痛みを伴う。

長時間座るなどしておしりが  
圧迫され、肛門周囲の血流が悪  
くなっている(うっ血)ところに、  
排便時やスポーツでのいきみや

パソコンの普及  
でデスクワーク  
が多くなり、痔で  
悩む人が増えて  
います。



肛門部への過度の刺激、負担により、肛門のクッション部分がい  
ぼのように膨れた状態です。体の冷えもうっ血の原因になります。

また妊娠、特に妊娠中～後期で痔になりやすく、この時期に痔

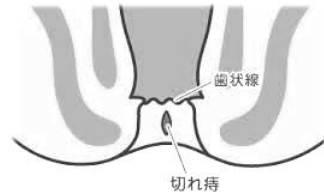
を発症する人の割合は 85%以上という報告もあります。妊産婦が患う痔の 95%は痔核です。赤ちゃんの成長とともに大きくなった子宮が、肛門周囲を圧迫することでうっ血し、出産時のいきみも痔の原因となります。



治療の基本は食事・生活習慣の改善、便通調整と薬による治療で、手術を必要とする患者は 1~2 割程度です。手術には、痔核を切除する方法の他、最近では、痔核に直接硬化剤を注射し、切らずに小さくする治療法(PAO 療法・ALTA 療法)もあります。

### ◆ 裂肛(切れ痔)

裂肛は痔疾患のうちの約 15%で、女性の、特に 20~40 歳代に多いのが特徴です。



肛門の出口付近の皮膚(歯状線の下にある肛門上皮)が切れた状態で、排便時に紙につく程度の少量の出血と強い痛みが伴います。排便後もズキズキした痛みがしばらく続くこともあります。慢性化すると潰瘍状になり、皮膚の突起物(見張りいぼ)やポリープができたり、肛門狭窄が起こることもあります。

原因は、便秘による硬い便の通過や、下痢便の強い勢いなどで、肛門の出口付近の外壁が切れたり避けたりするためです。無理にいきむことや、ひどい下痢では傷の治りが遅れ、また痛みのために便意を我慢すると、ますます便が硬くなり悪循環に陥りやすくなります。便通異常は女性に多く、裂肛になりやすいと言えます。

裂肛も基本は食事・生活習慣の改善、便通調整と薬による治療で軽快しますが、慢性化すると手術が必要となる場合があります。手術を必要とする患者は約 1 割程です。



## ◆ 痔瘻(あな痔)

歯状線のくぼみ部分に細菌が入り込むと、炎症が広がり化膿し膿がたまり  
ます(この状態を肛門周囲膿瘍<sup>のうよう</sup>と言いま



す)。この膿は自然に破れるか切開することにより一旦排出されます。そのまま治る場合もありますが、約半数の方が膿のトンネルのような通り道(瘻管<sup>ろうかん</sup>)が残る状態となり、これが痔瘻です。化膿を繰り返すうちに、まれに癌化することもあります。

肛門周囲膿瘍は、患部の腫れや熱っぽさ、排便時以外にも続く痛みや、日に日に強くなる痛みがあり、発熱を伴うこともあります。痔瘻では膿が出て下着が汚れることがあります。

疲労・ストレスによる免疫力の低下や下痢が原因となります。

痔瘻となった場合の治療は、薬の適応ではなく、治療には手術が必要になるため、早めの受診が必要です。

## 薬の種類

痔の保存療法(手術をしない治療法)では、生活改善の指導(排便や食事、入浴など)にあわせ、必要に応じて薬が処方されます。

外用の薬では、ボラザ G®・ヘモレックス®、プロクトセディル®などの軟膏や注入軟膏、坐薬などがあります。内服の薬が処方されることもあり、内服ではヘモナーゼ®・タカベンス®・ヘモクロン®など、また漢方薬の乙字湯などがあります。医師の

指示した使用期間を守り、きちんと治療しましょう。

一次回は痔のセルフケアや予防についてお話ししますー



❖❖ ひまわり薬局ではホームページも開設しています ❖❖

<http://www.himawari-ph.nagano.jp/>

こちらも是非、ご覧ください ☺